

「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)

平成 26 年 11 月 8 日	
所属部局・職	アジア・アフリカ地域研究研究科 博士課程学生
氏名	横塚 彩

1. 派遣国・場所 (〇〇国、〇〇地域)
鹿児島県・屋久島
2. 研究課題名 (〇〇の調査、および〇〇での実験)
屋久島実習
3. 派遣期間 (本邦出発から帰国まで)
平成 26 年 10 月 19 日 ~ 平成 26 年 10 月 24 日 (6 日間)
4. 主な受入機関及び受入研究者 (〇〇大学〇〇研究所、〇〇博士/〇〇動物園、キュレーター、〇〇氏)
京都大学
5. 所期の目的の遂行状況及び成果 (研究内容、調査等実施の状況とその成果：長さ自由)
写真(必ず1枚以上挿入すること。広報資料のため公開可のもの)の説明は、個々の写真の直下に入れること。 別途、英語の報告書を作成すること。これは簡約版で短くてけっこうです。
1. はじめに 2014/10/19(日)から10/24(金)まで鹿児島県の屋久島にて屋久島フィールド実習を行った。 参加人数が7名と少人数だったため、ヤクザルを追うサル、フン班と、ヤクザルが食べる一番大きな果実であるオオイタビに着目する果実班に分かれての調査を行った
2. 調査概要
10月19日 午後屋久島へ到着。西部林道を2時間ほど歩いて、植生やヤクザル、シカなどを観察
10月20日 どのような調査がこの実習期間内でできそうか見ながら西部林道を歩く。ヤクザルー集団(7頭)がセンダンの木になっているオオイタビのイチジクを採食している場面を観察する。ここで、オオイタビの種子散布にとって、ヤクザルが大きな役割を持っているのではないかというクエションが生じる。センダンの木の下に落ちていた新鮮そうなオオイタビを収集する。
10月21日 オオイタビのあるセンダンの木の近くにとどまり、どんな動物が来たか観察、記録する。21日はヒヨドリ、メジロ、コサメビタチ、ハシブトガラス、ヤクザルを確認する。木の下に落ちていたオオイタビの実の採集、木になっている比較的緑色のオオイタビの採集も平行して行う。メジロが頻りに採食していたオオイタビの実を木から切り取って中身を確認すると、果肉はほとんどない状態であった。また、オオイタビの実がヤクザル以外の動物には表皮が硬く採食が難しいが、メジロが採食していたオオイタビの実は真ん中から半分に分けていた。熟してそのような状態になったのか、ヤクザルが一度かじったためか、なぜ半分に分かれているのかは分からなかった。
10月22日 21日に引き続き、センダンの木の近くにとどまり、木にやってくる動物を観察した。2日目は鳥類の数が1日目に比べ減少したが、ヤクザルの数は増加した。ステーションに帰り、採取したオオイタビの大きさ、果肉量を計った
10月23日 2日間のデータをまとめたプレゼンテーション。
10月24日 屋久島の森を湯本先生の解説で散策。時間があまりなかったので2時間程度のトレッキングとなった。
3. まとめ 私の本科の研究対象は人なので、植物に着目して研究を行なうと、毎日観察し始めるのは、色々と感じる部分も多

「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)

かったが、3日間の調査でも解析を行ってみると採食の方法や、どんな動物がオオイタビを利用しているのかが分かった。また、サルの行動結果と糞分析、オオイタビでの調査結果を合わせると、種子散布において、ヤクザルがどの植物に対して大きな役割を持っているのかということが明らかになり非常に興味深かった。



6. その他 (特記事項など)

引率、ご指導くださいました、半谷先生、湯本先生、澤田さんありがとうございました。